

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン）

実現戦略 個表

〔令和5年3月〕

- * この内容は、毎年度、進捗管理を行い、必要な見直しを行います。
- * 指標・目標値については、可能な限り設定するものですが、今後の取組状況等に応じて見直しや、新たに設定を行います。
- * 現況値は、原則、2022（令和4）年度を用いるものですが、年度末到来後でなければ確定しないものなどは、2021（令和3）年度もしくはそれ以前の数値としています。よって、計画期間初年度となる令和5年度において、直近数値に置き換えることを予定しています。

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	① マチオモイな人たちの発掘・育成・支援				
基本理念	1	まち・ひとがつながる 協働・共創（協創）の自治体	重点戦略	1	パートナーシップの確立
未来像 2028（目指す姿）	(1)	多様な主体との協働・共創（協創）が推進されている	最適化の視点	マチオモイな視点	
担当課	学研企画課		主な関係課等	各課	
実施内容	持続可能なまちづくりの原動力として、様々な分野において地域で共に活動・活躍できる「マチオモイな人」と「つながりの輪」づくりに取り組みます。また、体験等を通じて自分が住む地域の歴史や魅力に触れることで、それを守り続ける市民意識の醸成を図ります。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
マチオモイな仲間との協働・（協創）の推進	協働・共創の場の創出、プラットフォームづくり					
	発掘・育成・支援					

■ 指標等

指標①	まちの愛着度（％）					
現況値（2017）	72.5		算出方法等		総合計画アンケート調査（5年ごと）	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	—	—	—	—	75.0

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略		② 産官学との連携による持続可能な社会の実現			
基本理念	1	まち・ひとがつながる 協働・共創（協創）の自治体	重点戦略	1	パートナーシップの確立
未来像 2028（目指す姿）	(1)	多様な主体との協働・共創（協創）が推進されている	最適化の視点	マチオモイな視点	
担当課	学研企画課 観光商工課		主な関係課等	各課	
実施内容	関西文化学術研究都市としての立地の優位性を活かし、研究機関や立地企業、京都府や近隣自治体など関係機関等との連携を深めながら、SDGs、カーボンニュートラル、スマート社会の実現や、様々な地域課題等の解決に向けた取組みを推進します。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
大学との連携	インターンシップ受入れ等					
立地企業との連携	意見交換、課題の共有等による連携強化					
民間企業・自治体等との連携	持続可能な社会の実現に向けた実証実験等					

■ 指標等

指標①	産官学連携事業実証実験取組数（件）					
現況値（2021）	3		算出方法等		年度末実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略		③ あらゆる世代が参画しやすい市政の推進			
基本理念	1	まち・ひとがつながる 協働・共創（協創）の自治体	重点戦略	1	パートナーシップの確立
未来像 2028（目指す姿）	(2)	市民参画を促進することで市政の透明性、信頼性が高まっている	最適化の視点	市民の視点	
担当課	人事秘書課 学研企画課		主な関係課等	人権推進課 審議会等設置・運営課	
実施内容	<p>審議会等の公募委員の選考方法の見直しや、オンライン会議の導入など、あらゆる世代が市政に参画しやすい環境の整備に取り組みます。</p> <p>また、パブリックコメント制度や市民意識調査への回答率を高めるため、SNSなどデジタル技術の利活用を推進するなど、多様なチャンネルを通じた広聴の手法についても検討や研究を行い、更なる広聴機会の確保に向けた取組みを進めます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
市民が参画しやすい仕組みづくり	広聴手法等検討		多様なチャンネルを用いた広聴			
	パブリックコメント等の実施					
審議会等の適正運営	公募委員・女性委員の積極的な登用					
	参画しやすい運営方法の検討、適正運営					

■ 指標等

指標①	パブリックコメント1件あたりの意見提出平均人数（人）					
現況値（2021）	6.6		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑







指標②	審議会等公募委員登用率（%）					
現況値（2021）	4.0		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	委員の定数に対して、原則として1割以上					

指標③	審議会等女性委員登用率（%）					
現況値（2022）	40.1		算出方法等		各年4月1日現在	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	2030年度において男女双方が40%以上60%以下					

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	④ 市政情報の可視化による信頼の向上と発信力の強化				
基本理念	1	まち・ひとがつながる 協働・共創（協創）の自治体	重点戦略	1	パートナーシップの確立
未来像 2028（目指す姿）	(2)	市民参画を促進することで市政の透明性、信頼性が高まっている	最適化の視点	市民の視点	
担当課	学研企画課 デジタル戦略室		主な関係課等	各課	
実施内容	<p>市政や財政状況、ストック、人事、各種計画、各種統計データなどをよりわかりやすく公開することで課題等を共有するとともに、市が保有する統計データを市民や企業等において二次利用が可能な形でオープンデータ化して公開するなど、市政情報の可視化を推進します。</p> <p>また、市民に必要な情報を的確に届けることができるよう、広報きづがわの充実や、市ホームページのアクセシビリティ向上を更に推進することに加え、時代の潮流を見極めたSNS等を通じたタイムリーな情報発信によって、発信力の強化に取り組みます。</p>				

■未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
広報・ホームページの更なる充実	アクセシビリティ向上  情報発信の強化 					
市公式アプリの活用	PR活動  AIチャットボットとの連携等機能拡充 					
オープンデータ及びビッグデータの活用	職員研修  対象データ抽出・公開 					

■指標等

指標①	ホームページアクセス数（件） ※主な新型コロナウイルス関連ページを除く					
現況値（2021）	10,409,150		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	公式アプリ等登録者数（人） ※公式アプリ、LINE、その他SNS					
現況値（2021）	1,500		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標③	オープンデータ公開数（件） ※京都府・市町村オープンデータポータル内					
現況値（2022）	4		算出方法等		各年度実績値（累計）	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	6	10	20	30	40	50

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑤ まちづくりの原動力となる職員の育成・確保				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(3)	職員力が高められている	最適化の視点		行政サービスの視点 職員の視点
担当課		人事秘書課	主な関係課等		デジタル戦略室
実施内容	<p>木津川市人材育成基本計画（平成25年11月7日策定）に掲げる本市が求める職員像実現へのアプローチとして、職員研修計画に基づく階層別・年代別など職員研修の充実と、参加しやすい環境の整備や、人事評価制度の適正な運用による評価結果を任用、給与、分限その他人事管理に十分に活用することを通じた人材（人財）育成制度への見直しの検討、さらには、職員自身のキャリアデザインに着目した人材（人財）育成や、女性職員が活躍するための特定事業主行動計画に基づく計画的な人材（人財）育成に取り組みます。また、市民や地域をはじめとする多様な主体との協働・共創（協創）に向けた職員意識の醸成を図ることで、地域課題等の解決に向け、地域に飛び出しまちづくりに取り組むマチオモイな職員の育成に取り組みます。そして、職員採用活動の強化による人材（人財）の確保や、国や京都府への派遣研修、公益法人等への派遣などにも取り組みます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
人材育成基本方針に基づく人材（人財）育成	将来を見据えた方針の検討・見直し →					
	職員研修・派遣等 →					
人事評価制度の有効かつ適正な運用	効果等検証による適正な評価のあり方についての検討・見直し →					
	人事評価、評価者・被評価者研修の実施 →					
有能な職員の確保	有効な採用手法の検討 →					
	職員採用活動の強化 →					

■ 指標等

指標①	仕事に働きがいを感じている職員の割合（％）					
現況値（2022）	80.2		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	仕事に満足と感じている職員の割合（％）					
現況値（2022）	74.5		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標③	—					
現況値（2021）	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑥ 若手職員を中心としたコミュニケーション力・課題発見力・課題解決力など能力開発				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028（目指す姿）	(3)	職員力が高められている	最適化の視点	行政サービスの視点 職員の視点	
担当課	人事秘書課 学研企画課		主な関係課等		
実施内容	<p>職員の市政に関する提案を奨励することにより、職員の意欲の高揚及び創造力の向上に資するとともに、事務の効率化及び市民サービスの向上を図ることを目的として実施している職員提案制度について、人事評価制度との連動を図るなど制度の見直しに取り組みます。</p> <p>また、職員が日々の業務以外の互いの業務や将来の本市のあるべき姿などについて、情報の共有や議論を深め、課題の解決や将来につながる政策提案を行う仕組みとして定着させ、継続した取組みとなるよう管理・監督職等が部下等の育成を含めて支援するなど、本市の将来を担う若手職員の育成と資質の向上につなげていきます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
意欲・創造力向上に繋がる仕組みづくり	職員提案制度の検証・見直し			→		
自主勉強会等の活動支援	職員提案の勤奨 →					
	リーダーの育成 →					
	グループ立ち上げ・活動支援 →					

■ 指標等

指標①	職員提案件数（件）					
現況値（2022）	3		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	上司サポート満足度（偏差値）					
現況値（2022）	53		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標③	同僚サポート満足度（偏差値）					
現況値（2022）	52		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑦ 職員表彰制度創設によるモチベーションの向上と職場風土の改革				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(3)	職員力が高められている	最適化の視点	職員の視点	
担当課	人事秘書課		主な関係課等	各課	
実施内容	<p>日常業務において、丁寧な窓口対応・接遇や業務改善・効率化、省エネ、マネジメント・リーダーシップ力の発揮、市のイメージアップへの貢献、果敢なチャレンジなど、目立たないが頑張っている努力や貢献も含め、職員、係、課、グループを対象に表彰することでモチベーションを高めるとともに、努力や貢献を表彰によって可視化することで全庁的な展開へと発展させ、常に改善が繰り返され、活力ある職場風土改革に取り組みます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
職員表彰制度の導入	調査・研究 →	制度構築 →			検証・見直し →	
		試行 →	運用開始 →			

■ 指標等

指標①【再掲】	仕事に働きがいを感じている職員の割合（％）					
現況値（2022）	80.2		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	職場の仕事の方針に自分の意見を反映できると感じている職員の割合（％）					
現況値（2022）	63.8		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑧ 女性活躍・多様な人材（人財）・多様な働き方の推進				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028（目指す姿）	(3)	職員力が高められている	最適化の視点	職員の視点	
担当課	人事秘書課		主な関係課等		
実施内容	<p>誰もが生きがいを感じ、その能力を發揮しながら多様な人材（人財）が活躍できる組織づくりに取り組むため、女性職員の活躍に向けた取組みを推進すると同時に、介護など家庭的な事情により時間的な制約を抱えて働く職員や、障害や病気の治療など一定配慮が必要な職員についても、テレワーク制度の利用を促進するほか、デジタル技術の活用等を通じて、職員一人ひとりの生産性向上及び職場風土の刷新を図りつつ、時間外労働の削減、休暇取得率と男性職員の育児休業取得率の向上、更に障害者雇用促進法の下、障害者法定雇用率の向上、65歳定年延長制度の適正運用などに取り組みます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
特定事業主行動計画の推進		計画策定 →	新たな計画に基づく取組み →			
	計画推進 →					
定年延長制度の適正運用		課題等把握・検証 →				
	運用開始 →					
障害者活躍推進計画の推進		計画策定 →	新たな計画に基づく取組み →			
	計画推進 →					

■ 指標等

指標①	女性管理職の割合（％）					
現況値（2022）	24.2		算出方法等		各年4月1日現在	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	30.0	↑	↑	↑

指標②	育児休業取得率（％）					
現況値（2022）	男性25.0、女性100		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	男性30.0 女性100	男性↑ 女性→	男性↑ 女性→	男性↑ 女性→	男性↑ 女性→

指標③	障害者法定雇用率（％）					
現況値（2022）	2.47		算出方法等		各年6月1日現在の実雇用率	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	2.60	2.80	↑	3.00	→	→

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑨ ころとからだの健康保持・増進				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(3)	職員力が高められている	最適化の視点	職員の視点	
担当課	人事秘書課		主な関係課等		
実施内容	<p>充実した社会生活を送ることはもとより、職員一人ひとりが能力を最大限に発揮しながら市民サービスを提供していけるよう、病気の早期発見、早期治療のための定期健康診断又は人間ドックの受診結果による要精密検査を勧奨し、受診率の向上を図ります。</p> <p>また、ストレスチェックによるセルフ診断で職員自身の気づきを促すことで、心の不調を早期に発見し、高ストレス者に対する面談など相談体制の充実と利用促進を図ることに加え、集団分析結果に基づく職場環境の改善や、職場内でのハラスメント防止対策として、職員研修等の実施体制を確保し、ハラスメントの相談窓口を設けることにより、より良い職場環境づくりに努めます。そして、職員の病気休暇等からの復職支援としては、必要に応じて医師等からの聞き取りにより円滑な復職を行うことや、復職後においてもカウンセリング等による復職支援を行うことで、良好な職場環境の実現を図ります。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
メンタルヘルス不調の防止対策	ストレスチェック実施・集団分析結果に基づく対応					
	産業医面談の実施、高ストレス判定者に対するケア					
ハラスメント防止対策	啓発・職員研修					
	相談・支援					
休業者等の復職支援	相談・支援					
	産業医・主治医との連携					

■ 指標等

指標①	精神および行動の障害による長期病休者率（％）					
現況値（2021）	1.26		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↓	↓	↓	↓	↓	↓

指標②	総合健康リスク（外部平均100に対する数値）					
現況値（2022）	81		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↓	↓	↓	↓	↓	↓

指標③	健康診断受診率（％）					
現況値（2021）	98.0		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑩	職員の成長と活躍を支える組織体制の構築と人員配置の最適化			
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(4)	組織力が高められている	最適化の視点	未来の視点 行政サービスの視点	
担当課	人事秘書課 学研企画課		主な関係課等		
実施内容	<p>今後、更に限られた職員数で最大の行政サービスを提供することが求められる中において、管理・監督職等が職員の成長を支え、それぞれが持つ能力を最大限に発揮しながら活躍できる組織体制へと変革することで、組織力の強化を図ります。そして業務改革によってムリ・ムダ・ムラのない生産性の高い組織体制を構築し、重点施策の推進や業務に見合った形で、定年延長制度や会計年度任用職員制度を有効かつ適正に運用するなかで、定員管理を最適化し適材適所へバランスよく配置するとともに、女性活躍・多様な人材（人材）・多様な働き方を推進しつつ、限られた職員数であっても、持続可能で質の高い市民サービスの提供へとつなげていきます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
職員の成長を支える組織体制の構築	組織体制のあり方検討 →					
	柔軟で機能的な組織運営 →					
定員管理と人員配置の最適化	計画策定 →	定数管理 →			計画策定 →	
	人員配置の最適化 →					

■ 指標等

指標①	仕事の量的負担にストレスを感じている職員（偏差値） ※数値が高いほどストレス少ない					
現況値（2022）	54		算出方法等		ストレスチェック集団分析結果	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	決算額に占める総人件費の割合（％）					
現況値（2021）	14.88		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↓	↓	↓	↓	↓	↓

指標③【再掲】	仕事に働きがいを感じている職員の割合（％）					
現況値（2022）	80.2		算出方法等		ストレスチェック	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑪	部局横断による課題解決力と対応力の強化			
基本理念	Ⅱ	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(4)	組織力が高められている	最適化の視点	行政サービスの視点	
担当課	学研企画課 危機管理課		主な関係課等	人事秘書課	
実施内容	<p>変化の激しい時代に対応した柔軟でスピード感のある行政運営を行うため、プロジェクトチームやワーキングチームによる機動性のある組織体制を構築することで、災害対応、感染症対策、自治体DX推進などの新たな課題への対応や、リスクに対して部局を超えた連携をさらに深めることで課題解決力を高めます。</p> <p>また、大規模災害が想定されている南海トラフ地震に備えて、災害発生時における被害を最小限に抑えるため、警察、消防などの関係機関や京都府、近隣自治体、自主防災組織と連携する中で、各部局、職員一人ひとりが役割や対応手順を理解し、災害時に適切、迅速に行動できるよう、日頃から地域防災計画や業務継続計画に基づく訓練、研修を継続して行うことで、危機対応力の強化を図ります。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
部局横断による機動的な組織体制の構築	組織のあり方検証・見直し					
	プロジェクトチーム等編成					
業務継続性の確保	業務継続計画の確認・検証・見直し					
	研修・訓練					

■ 指標等

指標①	災害対応研修・訓練実施数（回）					
現況値（2022）	4		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	4	→	→	→	→	→

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑫ 新たな視点による行政運営マネジメントシステムへの転換				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(4)	組織力が高められている	最適化の視点		未来の視点 経営の視点
担当課	学研企画課 行財政改革推進室		主な関係課等	人事秘書課	
実施内容	<p>限られた経営資源を選択と集中によって適正に配分するため、新たな視点によるマネジメントを検討し、本市にとって最適な仕組みを目指します。</p> <p>また、これにあわせて、総合計画実施計画と事務事業評価の一体化や、執行目標制度の見直しに向けた検討を行うなど、これからの時代にあった行政運営マネジメントへの転換を目指します。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
新たなマネジメントシステムへの転換	調査・研究・課題等整理			検証・見直し		
				試行	導入・運用	
行政評価制度の見直し	調査・研究・課題等整理			検証・見直し		
				試行	導入・運用	

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑬ 情報公開制度と個人情報保護制度の更なる適正運用				
基本理念	Ⅱ	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(4)	組織力が高められている	最適化の視点	行政サービスの視点 市民の視点	
担当課	総務課		主な関係課等	各課	
実施内容	<p>情報公開、個人情報保護、行政不服審査制度に対する職員の理解を深め、適正な運用を図り、情報公開制度や個人情報保護制度の運用状況について、引き続き広報きづがわやホームページで公表します。</p> <p>また、個人情報の保護に関する法律が改正され、これまで自治体で差異のあった個人情報の取扱いについて、一律のルールが適用されることから、法令等に基づき、適正な運用を図ります。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
情報公開制度の適正運用	運用・市民周知・ホームページ等公表、情報サービスコーナーの設置					
	職員研修等					
個人情報保護制度の適正運用	運用・市民周知・ホームページ等公表					
	職員研修等					
行政手続制度の適正運用	運用・市民周知・ホームページ等公表					
	職員研修等					

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑭	コンプライアンスの更なる徹底			
基本理念	Ⅱ	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	2	行政システムの最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(4)	組織力が高められている	最適化の視点	行政サービスの視点 市民の視点	
担当課	人事秘書課		主な関係課等	会計課 総務課	
実施内容	公正で透明性の高い信頼ある行政運営を確保するため、職員、組織としてのコンプライアンス意識を更に高めることで、引き続き適正な業務執行に取り組みます。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
職員意識の醸成	職員研修等 →					
文書・例規事務の適正化	文書主任の選任・研修等 →					
	例規立案マニュアル等の作成・更新 →					
会計事務の適正化	適正伝票実態調査の実施等 →					
	会計事務マニュアル等の作成・更新 →					

■ 指標等

指標①	職員の懲戒処分者率（％）					
現況値（2021）	0.0		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	→	→	→	→	→	→

指標②	文書主任等研修会延べ受講者数（人）					
現況値（2021）	563		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標③	会計伝票適正帳票率（％）					
現況値（2021）	97.1		算出方法等		各年度平均値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	97.4	97.7	97.9	98.1	98.2	98.3

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑮ 木津川市スマート化宣言の具現化・具体化による取組みの加速				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	3	スマート自治体への転換
未来像 2028 （目指す姿）	(5)	スマート自治体に向けた取組みが加速されている	最適化の視点	未来の視点 行政サービスの視点	
担当課	デジタル戦略室		主な関係課等	各課	
実施内容	<p>木津川市スマート化宣言に基づく3つの戦略の実現など、デジタルの力を活用し持続的発展性のあるまちづくりを戦略的に進めるための方針となる（仮称）木津川市スマート化戦略を策定し、ビジョンを共有した上で、ロードマップに基づき計画的に具体的な取組みを推進します。</p> <p>なお、（仮称）木津川市スマート化戦略等の策定、推進にあたっては、デジタル田園都市国家構想総合戦略をはじめとする国のデジタル社会の実現に向けた方針等との整合を図る中で、本市にとって最適なスマート自治体への転換を目指します。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
（仮称）スマート化戦略の策定・推進	戦略策定 →	戦略推進・検証等	→			
（仮称）スマート化計画の策定・推進	計画策定 →	計画推進・ローリング等	→			
	ICT推進会議・部会等の運営・進捗管理 →					

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑯ 自治体DX推進体制の構築				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	3	スマート自治体への転換
未来像 2028（目指す姿）	(5)	スマート自治体に向けた取り組みが加速されている	最適化の視点	未来の視点 行政サービスの視点	
担当課	デジタル戦略室		主な関係課等	人事秘書課	
実施内容	<p>自治体DXの推進に向け、市長のリーダーシップの下、最高情報統括責任者（CIO）を中心とする全庁的な推進体制を構築します。</p> <p>その中で、情報政策担当（デジタル戦略室）、行財政改革担当（行財政改革推進室）、人事担当（人事秘書課）、政策形成・組織担当（学研企画課）、財政担当（財政課）が連携を深め、管理部門として自治体DXを推進する役割を担い、業務担当（各課）は、主体性をもって取り組むこととします。また、全庁的な推進体制として、スマート化やBPRを推進するためのチーム体制の構築、職員の育成に努めるとともに、外部人材（人財）の登用やITスキルを持つ職員の採用など人材（人財）確保に向けた検討を進めるなど、推進体制の構築に取り組みます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
庁内推進体制の構築	ICT推進会議の設置・運営					
	部局横断による推進体制の構築					
DX人材（人財）の育成・確保	人材（人財）育成・確保のための方策検討・育成・確保					

■ 指標等

指標①	DX推進のために開催された会議開催数（回） ※ICT推進会議・部会等					
現況値（2022）	2		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
		3	↑	↑	↑	↑

指標②	ITスキル向上に関する勉強会等開催数（回）					
現況値（2022）	—		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
		4	8	→	→	→

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
		—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑰ 自治体DXに向けた職員の意識改革と行動の変容				
基本理念	II	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	3	スマート自治体への転換
未来像 2028 （目指す姿）	(5)	スマート自治体に向けた取組みが加速されている	最適化の視点	未来の視点 行政サービスの視点	
担当課	デジタル戦略室		主な関係課等	人事秘書課、学研企画課	
実施内容	すべての職員がデジタル技術の基本知識を有し、基本的なツールを使いこなすデジタルリテラシーの向上を図ると同時に、本市がデジタル化によって目指すべき・あるべき社会を未来視点に立ち、現場をよく知る職員一人ひとりが自分事として、自律的に業務の課題を発見し、改善に向けた業務のやり方を描き、試行錯誤しながら小さな成功を積み重ねることで大きな成功へとつなげていくことが自然に行われる組織風土への変革と、職員の意識改革、機運醸成、行動変容へとつながる取組みを推進することで、スマート自治体への転換に向けた人的な基盤を整備します。				

■未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
職員デジタルリテラシーの向上	職員研修・情報発信・共有等					
情報セキュリティ対策の推進	情報セキュリティポリシーの更新・システム監視等					
	職員研修・内部監査人の育成・セキュリティ監査の実施					

■指標等

指標①	外部講師による職員向け研修会実施回数（回）					
現況値（2022）	1		算出方法等		各年度実績値（累計）	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	1	→	→	→	→	→

指標②	情報セキュリティポリシーに関する研修受講者数（人）					
現況値（2022）	—		算出方法等		各年度実績値（累計）	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	50	110	120	130	140	150

指標③	情報セキュリティ内部監査人数（人）					
現況値（2022）	—		算出方法等		各年度実績値（累計）	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	3	5	7	9	11	13

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑱	業務改革による効率性・生産性の向上（ムリ、ムダ、ムラの解消）			
基本理念	Ⅱ	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	3	スマート自治体への転換
未来像 2028（目指す姿）	(6)	市役所の効率性・生産性が高められている	最適化の視点	未来の視点 行政サービスの視点	
担当課	行財政改革推進室		主な関係課等	デジタル戦略室	
実施内容	BPRを推進するための実施方針を定め、ロードマップに基づき業務量を可視化し、職員でなければならない仕事（コア業務）とそうでないもの（ノンコア業務）を仕分けし、人がやらなければならない仕事、既存のオフィスソフトの活用など内製化で効率化できるもの、デジタル技術を活用して効率化できるものへと業務プロセスをデザインし、業務の効率化と生産性の向上を図ります。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
業務量・コストの可視化	実施方針・計画策定 →					
		調査・分析 →				
業務プロセスの最適化	業務手順書の見直し、最適なツールの検討・決定、モニタリング →					
	RPA等による業務の自動化等 →					
相談・支援体制の構築	説明会・研修等 →					
	最適なツールの提案・相談 →					

■ 指標等

指標①	デジタル技術を活用して新たに自動化した業務数（件）					
現況値（2022）	—		算出方法等		年度末実績値	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	2	2	2	2	2	2

指標②	—					
現況値（2022）	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略		⑱ オフィス空間の最適化の検討			
基本理念	Ⅱ	豊かなアイデアで 未来を見据え 改革する自治体	重点戦略	3	スマート自治体への転換
未来像 2028 （目指す姿）	(6)	市役所の効率性・生産性が高められている	最適化の視点	未来の視点 職員の視点	
担当課	デジタル戦略室		主な関係課等	人事秘書課・総務課 行財政改革推進室	
実施内容	デジタル技術の活用や業務効率化を推進し、アナログからデジタルへと変革することで、書架等を原則廃止とするなど有効な手法によって、限られた庁舎スペースをコワーキングスペースやミーティングスペースなど共用スペースとしてレイアウトを変更し、フリーアドレス制の導入検討や、コミュニケーションツールの積極的な活用による垣根のない職場風土づくりなど、これからの時代にあった働きやすい執務環境へと最適化することで、職員の生産性の向上とワーク・エンゲイジメントを高めます。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
最適なオフィスレイアウトの検討	フリーアドレス制導入など最適化に向けた検討					
				段階的なレイアウト変更等		
デジタル技術の利活用	コミュニケーションツールの利用促進等					

■ 指標等

指標①	LOGOチャット メッセージ数 (件)					
現況値 (2022.7~12)	71,012		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑳	ファシリティマネジメント推進体制整備による取組みの加速			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028（目指す姿）	(7)	保有資産の最適化に向けた取組みが加速されている	最適化の視点		市民の視点 経営の視点
担当課		財政課	主な関係課等		行財政改革推進室 市有財産所管課
実施内容	<p>経営資源となる資産の有効活用や公共施設等総合管理計画と個別施設計画の推進に向けた取組みを全庁的に横展開するため、庁内横断的な検討組織の創設や、経営視点に立ち資産をマネジメントする体制の構築を検討するなど、体制の強化を図ることで取組みを加速します。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
公共施設等総合管理計画の推進	進捗管理・検証・見直し		→	全面改訂	→	進捗管理・検証
	行財政改革推進本部・委員会報告、公表					
個別施設計画の推進	進捗管理・検証・見直し					
	行財政改革推進本部・委員会報告、公表					
庁内推進体制の強化	市有財産利活用推進検討委員会の運営					
	推進体制・仕組みづくりの検討					

■ 指標等

指標①	公共建築物の保有量（延床面積）削減率（％）					
現況値（2021）	3.0		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	8.0	↑	↑

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略		⑳ 保有資産の可視化			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028（目指す姿）	(7)	保有資産の最適化に向けた取り組みが加速されている	最適化の視点		市民の視点 経営の視点
担当課		財政課	主な関係課等		行財政改革推進室 市有財産所管課
実施内容	固定資産台帳の整備によって得られた有形固定資産減価償却率による老朽化度合などの情報をはじめ、運営に係るコスト、利用状況に加え、補修・改修履歴や今後の大規模改修計画などを施設カルテとして一元的に管理し、わかりやすく公表することで、客観的なデータと評価に基づくあり方やフルコストによる受益者負担の見直し検討に資するとともに、民間事業者からの利活用の提案などにもつなげることで、公共施設マネジメントを推進します。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
保有情報の管理・更新	公共施設白書の定期的な更新 →					
	固定資産台帳の更新、公表 →					
施設カルテの導入・活用	課題等整理 →					
	庁内連携による導入・活用・公表 →					
庁内管理体制の強化	管理体制・新たな組織づくりの検討 →					

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	②	市民参画による公共施設マネジメントの推進			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028（目指す姿）	(7)	保有資産の最適化に向けた取り組みが加速されている	最適化の視点	市民の視点、未来の視点 経営の視点	
担当課	財政課・行財政改革推進室 学校教育課・こども宝課		主な関係課等	施設所管課	
実施内容	<p>公共施設の多くは、学校施設や地域コミュニティの拠点、スポーツ、生涯学習の場となるなど、多様な役割を担っていることから、公共施設マネジメントを推進するにあたっては、市民の理解と納得感を得ることが重要となります。財務書類等による客観的なデータと評価の公表によって、課題や危機感等を共有しながら、今後の社会情勢や利用者ニーズの変化、地域性を踏まえ、将来視点に立ったワークショップの開催や意向調査などの結果を踏まえて、方向性を検討するなど、市民と共に取組みを進めます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
市民参画手法の検討	未来視点に立ったワークショップなど市民参画手法の検討・実践					
計画に基づく保育所民営化等・幼稚園再編	保育所民営化等実施計画の推進・検証					
計画に基づく小中学校のあり方検討	公立幼稚園再編実施計画の推進					
	子どもたちの教育環境を守るための小・中学校の在り方基本計画に基づく検討等					
	学校施設等長寿命化計画に基づく教育施設の整備の検討					

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑳	近隣団体との連携による共同運営・相互利用等の推進			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028（目指す姿）	(7)	保有資産の最適化に向けた取り組みが加速されている	最適化の視点		市民の視点 経営の視点
担当課		財政課 社会教育課	主な関係課等		施設所管課
実施内容	<p>近隣団体との施設の共同運営・相互利用等を推進することによって、施設更新、維持管理に係る負担をそれぞれが分かち合い、限られた経営資源を賢く使い、上手く運営するマネジメントへと発想を転換することで、ニーズの充足と公共施設の最適化を図ります。</p> <p>〔参考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相楽広域行政組合による休日応急診療所、消費生活センター、し尿処理施設 ○相楽中部消防組合による消防本部、消防署、さらに同組合と奈良市消防との連携 ○環境施設組合や相楽療育教室 ○京都府図書館等連絡協議会加盟館による相互貸借 ○奈良市との連携による奈良市北部図書館の市民利用 <p>一方で、通級指導教室や病児病後児保育の単独化のように、より良いあり方検討の結果、連携解消もあり得る。</p>				

■未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
共同運営・相互利用の推進	事例研究・課題等整理					
奈良市北部図書館市民利用と電子図書館共同	市有財産利活用推進検討委員会等庁内連携による検討・推進					
	P R 活動・利用促進					
	共同運用					

■指標等

指標①	奈良市北部図書館木津川市民登録者数（人）					
現況値（2021）	3,129		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	3,400	3,600	3,800	4,000	4,200	4,400

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑳	未利用・低利用資産の更なる有効活用			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028（目指す姿）	(7)	保有資産の最適化に向けた取り組みが加速されている	最適化の視点		市民の視点 経営の視点
担当課		財政課 行財政改革推進室	主な関係課等		市有財産所管課
実施内容	<p>現在、十分活用されていない資産や具体的な利用計画を持たない資産については、京都府公民連携プラットフォームへの参画による民間のノウハウや資金を有効活用する視点に立った検討を進めるなど、有効活用を図り、今後、利活用が見込めない場合には、売却に向けた手続きを行います。</p> <p>また、売却方針を決定したものの、入札が成立せず売却に至っていない資産についても、貸付などを含めて様々な方策を検討し、活用に努めます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
市有財産利活用推進検討委員会の運営	利活用の検討・課題整理等					
方針決定に基づく売却・利活用	売却					
	利活用					
民間活力の活用検討	京都府公民連携プラットフォームへの参画					
	事例研究・庁内連携・情報共有					

■ 指標等

指標①	未利用市有財産売却・利活用件数（件）					
現況値（2022）	2		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	②⑤	公共施設包括管理業務委託導入可能性の検討			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028（目指す姿）	(8)	公共施設の管理運営が最適化されている	最適化の視点		市民の視点 経営の視点
担当課		行財政改革推進室	主な関係課等		指導検査課 市有財産所管課
実施内容	施設所管課が施設ごとに行っている保守点検、清掃、機械警備、小修繕等の管理業務を一つに包括し、複数年にわたり委託することで、民間ノウハウや技術力の活用による、より高い水準で一括した維持管理が可能となり、職員負担の軽減に繋がることが期待されることから、先進事例研究や、メリット・デメリット、費用対効果、地元企業の成長、新たな雇用の創出可能性などを総合的な観点から包括管理業務委託導入可能性の検討に取り組みます。				

■未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
導入可能性の検討	調査・研究			→		
	庁内連携・情報共有・課題等整理			→		

■指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	②⑥	サービス品質の向上による利用促進			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028 （目指す姿）	(8)	公共施設の管理運営が最適化されている	最適化の視点		市民の視点 経営の視点
担当課		行財政改革推進室	主な関係課等		指定管理導入施設所管課 公共施設所管課
実施内容	<p>指定管理施設における民間のノウハウを活かした適正な管理運営とモニタリング調査を通じたサービスの向上に引き続き取り組みます。</p> <p>また、市が直接管理運営する施設においても、市民ニーズを的確に把握しながら事業や講座等の見直しなどサービス品質向上に努めることで、施設の利用促進を図ります。そして施設のPRによる認知度の向上や、魅力的な事業の展開によって、より多くの市民が利用できる機会の確保に取り組みます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
モニタリング調査による適正な管理運営	施設所管課によるモニタリング調査 →					
	改善指示等 →					
アンケート調査結果に基づく質の向上	指定管理者によるアンケート調査 →					
	分析・改善 →					
サービス向上・利用促進に向けた取組み検討	調査・研究 →					
	可能なものから順次実施 →					

■ 指標等

指標①	指定管理施設利用満足度（％） ※非常に満足・満足・また利用したいと感じた人の割合					
現況値（2021）	93.1		算出方法等		利用者アンケート結果	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	指定管理施設に対するモニタリング調査（回） ※各施設2回/年度					
現況値（2021）	19		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	20	→	→	→	→	→

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑳ 受益者負担の適正化				
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	4	公共施設の最適化
未来像 2028（目指す姿）	(8)	公共施設の管理運営が最適化されている	最適化の視点		市民の視点 経営の視点
担当課		行財政改革推進室	主な関係課等		各課
実施内容	施設を利用する人とし不在の税負担の公平性を確保するため、今後の施設のあり方や、人口減少、社会経済情勢の変化など将来を見据え、財務書類等や稼働率など客観的データ、減免措置の考え方の整理など総合的な観点に立ち、これからの時代にあった使用料・手数料へと見直し、受益者負担の適正化に取り組みます。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
基本方針に基づく適正な受益者負担の検証	現状把握・課題等整理 →					
算定に用いるコスト等の考え方の整理	調査・研究・課題等整理 →					
減免基準の考え方の整理	現状把握・検証・課題等整理 →					
	方向性の検討 →					
			定期的な検証・見直しによる適正化 →			

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑳	市税等収納率の更なる向上			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(9)	稼ぐ力が高められている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	税務課		主な関係課等	税外債権プロジェクトチーム	
実施内容	<p>市税等の収納対策として口座振替利用促進のためのPR活動を継続して行います。その他納付方法としてスマートフォン決済、QRコード付き納付書の導入など多様な納付方法によって収納率向上に向けた取組みを推進します。</p> <p>また、未納対策として市税（市民税、軽自動車税、固定資産税）について、督促様式を納付書付き圧着ハガキに令和5年度から変更し、納税者の利便性の向上並びに納付環境の整備を行うとともに、相続人調査の実施による適正な課税などを行います。そして、税外債権プロジェクトチームによる各債権の収納率向上対策を継続して取り組み、適正な債権管理を行います。</p> <p>〔参考〕※市税納付方法 口座振替21.6%、納付書53.6%、コンビニ納付19.9%、スマホ決済3.0%、eLTAx1.9%</p>				

■未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
納期限内納付の推進、納付機会の確保	口座振替の推奨					
税外債権プロジェクトチーム	多様な納付手段の検討・導入					
債権の適正管理	債権管理基本計画の策定					
	先進事例研究、債権管理の課題、対応策の検討					
債権の適正管理	債権管理台帳の整備、滞納処分の実施等					
	京都地方税機構との連携					

■指標等

指標①	市税収納率 (%)					
現況値 (2021)	99.38		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	99.50	↑	↑	↑

指標②	税外債権全体収納率 (%)					
現況値 (2021)	98.63		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	↑	↑	98.82	↑	↑	↑

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	⑳	資産等の有効利用による自主財源の確保			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(9)	稼ぐ力が高められている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	行財政改革推進室		主な関係課等	学研企画課・観光商工課 総務課	
実施内容	公共施設や公用車、市有地などにおける新たな有料広告の導入検討や、市の刊行物、ホームページでの有料広告募集、ネーミングライツの拡大に加え、PPP/PFI、SIB、クラウドファンディングによる民間資金の調達や、本市が有する資産と魅力ある観光資源を最大限に活用するなど、様々な手法によって自主財源の確保に向けた取組みを推進します。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
多様な手法による新たな自主財源の確保	先進事例調査・研究					
	庁内連携による検討・実践					
広告媒体の拡充	営業活動					
	新たな広告媒体の検討・導入					

■ 指標等

指標①	市ホームページおよび広報紙への広告掲載料（千円）					
現況値（2021）	2,506		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	2,774	2,804	2,834	2,864	2,894	2,924

指標②【再掲】	ふるさと納税寄附額（千円）					
現況値（2021）	35,316		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	100,000	↑	↑	↑	↑	↑

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③⑩	ふるさと納税の更なる増強・企業版ふるさと納税の活用促進			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(9)	稼ぐ力が高められている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	学研企画課		主な関係課等	観光商工課・農政課・財政課	
実施内容	<p>ふるさと納税の寄附の拡大を図るため、新たな返礼品の発掘や新商品の開発と、参加事業者や異業種とのマッチングなどに取り組むほか、制度を活用した市内事業者の魅力創出によって、地域経済の活性化とまちづくりのための財源確保を図ります。</p> <p>また、これまで関西文化学術研究都市として多くの企業を誘致してきたところ、そういった本市の取組みに賛同いただける企業に対して法人関係税の一部税額控除される企業版ふるさと納税のメリットを伝え、地方創生の取組みを推進します。</p> <p>〔参考〕※ふるさと納税（令和3年度） 京都府下27団体内 21番目</p>				

■未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
返礼品の充実	返礼品追加					
	市内事業者の魅力創出等					
認知度・知名度の向上	調査・研究					
	ふるさと応援促進チーム活動					
企業版ふるさと納税のPR活動	企業営業等					

■指標等

指標①	ふるさと納税寄附額（千円）					
現況値（2021）	35,316		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	100,000	↑	↑	↑	↑	↑




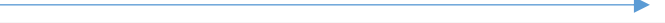
指標②	企業版ふるさと納税寄附額（千円）					
現況値（2021）	1,000		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	5,000	↑	↑	↑	↑	↑

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③①	資源を最適配分するための自主性・自立性の確保とコスト意識の向上			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	行財政改革推進室		主な関係課等	財政課	
実施内容	変化の激しい時代にあって、持続可能な形で行政サービスを維持していくための貴重な経営資源となる財源を、いかに確保し、それを選択と集中によって適切にどう配分するかを、まちづくりを担う職員一人ひとりが、自分事として捉え、将来の視点、改革の視点に立ち、予算要求から執行、成果に至るプロセスに責任をもって取り組む意識の醸成と行動の変容につながるテーマ別の研修やワークショップ等に取り組みます。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
情報発信による共有	行革通信の発行 					
	わかりやすい情報の発信 					
研修・ワークショップ等による意識の醸成	計画的な実施 					
	外部研修等への参加、庁内情報共有 					

■ 指標等

指標①	情報発信回数（回）					
現況値（2021）	12		算出方法等		各年度実績値	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

指標②	行財政改革推進による財政状況改善のための取組みに対する満足度（％）					
現況値（2017）	11.7		算出方法等		総合計画アンケート調査（5年ごと）	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	—	—	—	—	15.0

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③②	予算編成マネジメントの強化			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	財政課 行財政改革推進室		主な関係課等	各課	
実施内容	<p>より市民に近く市民ニーズを的確に把握できる各担当部局、担当課、職員がこれまで以上に予算に対する説明責任を果たしながら、限られた財源を真に必要な事業に集中し配分できるよう、包括予算制度の導入を検討するなど部局における予算編成マネジメントの強化と、職員一人ひとりのコスト意識及び改革意識の醸成を図ることで、予算編成の中で、自律的に財源の確保と事務事業の見直しが行われP D C Aサイクルが機能する仕組みづくりに取り組みます。そして、これと同時に、予算編成プロセスの見直しによる編成作業の効率化と事務負担の軽減や、執行目標制度、行政評価制度、人事評価制度との連動に向けた検討を行います。</p>				

■未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
包括予算制度など新たな仕組みの構築	調査・研究・課題等整理・スキーム構築	→	→	試行	→	→
	行政評価等との連動に向けた課題等整理	→	→	試行	→	→
予算要求枠に基づく經常財源の最適配分	一般財源等予算要求枠の設定・配分・査定	→	→			
	部局における選択・集中と枠内要求の徹底	→	→			
予算編成プロセスの効率化等の検討	検討・課題等整理	→	→			
	順次実施	→	→			

■指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③③	ガイドラインの策定による適正かつ効果的な補助制度への転換			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	行財政改革推進室		主な関係課等	各課	
実施内容	補助金等の財源は市民からの税金であるとの認識に立ち、社会経済情勢や市民ニーズに即した補助制度の効率的・効果的な運用を図るとともに、市民への説明責任を果たすため、補助制度の検証の統一基準を定めた（仮称）補助金適正化ガイドラインを策定し、補助制度の適正化に努めます。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
ガイドラインの策定	現状把握・課題等整理 →					
		策定 →				
検証サイクルの構築	定期的な検証・見直し →					

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③④	情報システム最適化の推進			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	デジタル戦略室		主な関係課等	各システム運用課	
実施内容	<p>既存システムの更新に係るコスト負担に加え、今後、行政のデジタル化が進むにつれてシステム導入経費や更新・維持管理経費が増加するとともに、人的負担の増加も懸念されることから、更新時期の平準化、維持管理費などのランニングコストの考慮、利便性の高いシステム構築を図ることに加え、継続的な業務プロセスの見直しとデジタル技術を活用した業務の共通化・標準化による業務省力化・効率化を図ります。</p> <p>そして、国が進める自治体クラウドへの移行や、京都府自治体情報化推進協議会との連携によるシステムの共同利用を図るなど、システムの最適化を推進します。</p> <p>そのため、毎年度、庁内システム一覧の作成・更新を実施し、各システム間のデータ連携の推進による業務の効率を目指します。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
システムの共同利用の推進	京都府自治体情報化推進協議会との連携強化					
基幹システム標準化への対応	標準システムへの移行等					
庁内システム一覧の作成・更新	作成・更新					

■ 指標等

指標①	クラウドサービス利用システム数（件） ※L G W A N - A S P 含む					
現況値（2022）	12		算出方法等		各年度実績値（累計）	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	↑	↑	↑	↑	↑	↑




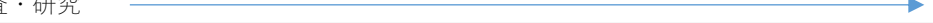


指標②	標準システム移行システム数（件）					
現況値（2022）	—		算出方法等		各年度末実績値（累計）	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	20	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③⑤	入札・契約制度の更なる適正運用			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	行政サービスの視点	
担当課	指導検査課		主な関係課等	各課	
実施内容	入札・契約において、競争性・透明性・公平性を確保するため、法令等に基づいて、より適正で的確な入札・契約制度の運用に引き続き取り組みます。また、制度の改善にあたっては、公共工事の品質確保や建設業の働き方改革等に沿った取り組みを検討・推進します。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
入札契約事務の適正執行	執行 					
	業者登録・入札参加資格審査、建設工事等競争入札業者選定会等 					
入札契約事務の電子化の推進	電子入札の実施 					
	電子契約の調査・研究 					
事業者の事業継続、担い手確保への取組	施工時期の平準化の推進等 					
	週休2日制工事の導入に向けた調査・研究 					

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③⑥	公共事業・大規模事業の平準化			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	財政課		主な関係課等	指導検査課 事業所管課	
実施内容	<p>施設やインフラの老朽化による長寿命化改修に加え、人口増加に伴う都市基盤の整備に多額の財源が必要となる中、今後、固定資産台帳や施設カルテに基づく客観的なデータと、緊急性、重要性、財源確保の観点から総合的に判断し、優先順位に従い計画的に実施することで財政負担と人的負担の平準化を図ります。</p> <p>また、発注時期及び工期が集中しないよう年間を通じた分散化を図るため、可能なものについては、1年未満の工事であっても債務負担行為（ゼロ市債）の積極的な活用を検討するなど、工事施行時期を平準化することで、建設資機材や人材による影響を可能な限り排除するとともに、建設業における働き方改革を推進します。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
大規模事業計画の策定	策定・ローリング					
	財政収支見通しへの反映					
計画に基づく効率的・効果的な事業の執行	特定財源の確保・有利な市債の活用					
	公共施設等整備基金の計画的な繰入れ					
債務負担行為（ゼロ市債）の活用	活用の検討・活用					

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023（R5）	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略		③⑦ 地方公会計による財務書類や地方財政状況調査結果の分析と活用			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	財政課		主な関係課等	特別会計・公営企業会計所管課	
実施内容	財務書類の作成や地方財政状況調査データによって得られる本市の財務状況の傾向を分析・公表し、それを客観的なデータとして予算編成や公共施設マネジメント、施策の展開、事務事業の見直し等に有効に活用することで、持続可能な財政運営へとつなげていきます。				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
財務書類の作成・公表	作成					
	分析・公表					
地方財政状況調査	作成					
	分析・財政状況資料集作成・公表					
予算・公共施設マネジメント等への活用	検討		活用			

■ 指標等

指標①	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③⑧	基金の管理・運用と計画的な積立て・取崩しによる財源調整			
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	会計課 財政課		主な関係課等		
実施内容	<p>社会経済情勢等の変化による財源不足や、災害等の不測の事態に備えるための財政調整基金をはじめ、減債基金、公共施設等整備基金など各種特定目的基金について、将来の財政負担に備えた基金への積立てと目的に応じた取崩しを計画的に行うことにより、持続可能な財政運営の確立を目指します。</p> <p>また、木津川市公金管理運用基準に基づき、適正な管理・運用を行います。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
財政調整基金の計画的な活用と基金額の確保	計画的な財源調整					
特定目的基金の計画的な活用と基金額の確保	決算剰余金等の積立					
安全確実な資金管理と運用	適正な管理・運用					
	ペイオフ対策					

■ 指標等

指標①	※第4次行財政改革行動計画 Ⅱ 財政指標等の現状と目標値による					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

第4次木津川市行財政改革行動計画（アクションプラン） 実現戦略 個表

実現戦略	③⑨ 財政指標等の目標設定による財政健全化				
基本理念	Ⅲ	信頼され 満足度の高い 簡素で 持続可能な自治体	重点戦略	5	持続可能な財政基盤の確立
未来像 2028（目指す姿）	(10)	規律のある財政運営が行われている	最適化の視点	財政健全化の視点	
担当課	財政課		主な関係課等		
実施内容	<p>将来にわたり市民サービスを安定かつ継続して提供できる強固な財政基盤を構築するため、財政指標等の目標を設定・管理しながら、収支の均衡がとれた規律ある財政運営を行うことで、健全財政を堅持し将来世代へとつなげていきます。</p>				

■ 未来像の実現に向けたプロセス

行動内容	行動計画					
	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
財政運営上の課題等の把握	財政収支見通しの作成・ローリング					
	財政課題等の把握・対策の検討					
財政指標等の適正管理	目標設定・管理					
	収支不足の解消、財政指標等の改善					
財政運営指針（財政規律）の策定検討	調査・研究					

■ 指標等

指標①	※第4次行財政改革行動計画 Ⅱ 財政指標等の現状と目標値による					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標②	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—

指標③	—					
現況値	—		算出方法等		—	
目標値又は効果額	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)
	—	—	—	—	—	—